



広島へ 沖縄へ 支援行動

現地との思いひとつに



広島豪雨土砂災害

8月20日に広島を襲った豪雨災害。民医連では9月29日まで全国各地から1632名の仲間がボランティアに駆けつけ、避難所訪問活動や泥かきなどの救援活動を行いました。同人社団からも役員15名が現地へ駆けつけています。

また、11月16日投票の沖縄県知事選挙支援では、「辺野古への新基地建設ストップ」全国の心をひとつにの思いで、役員・健康友の会みみはらから27名が参加予定です。

広島豪雨土砂災害支援

老松診療所 所長

緒方 浩美

8月30日 災害発生後 10日目に現地に入り地域訪問+作業を行いました。

急斜面に張り付くように造成された宅地に、濁流が流れこみ細い道路には重機が入らず、人力でないと対応できない地域が多く、事態の深刻さを思い知らされました。昔から土石流があった地域の、息切れするような山肌に見える住宅地をみると、都市計画上の問題は免れない印象を受けました。

21世紀に入り、降雨量は明らかに増大しており、地球温暖化の影響による異常気象が顕在化している現実を考えると、人類は戦争なんかしている場合じゃあない、地球上の生物が生き延びるために人類の英知を結集しないと手遅れになるのでは、との想いを強くして帰阪しました。

老松診療所 事務長

北出 祥夫

朝のテレビを見て、その凄まじさに驚きました。生活の場を失った人たちが、元の生活を取り戻そうと懸命に復旧作業されている姿を見て、阪神淡路や東日本大震災

の時と同じように「他人事ではない」という気持ちになり、やっと休みのとれた8月30日の土曜日に友人を誘い、朝4時に堺を車で出発。9時には広島共立病院に到着しました。

現地には、全国各地の民医連から集まった同じ思いの100人近い仲間があり、心強く感じました。支援としては、安佐南区八木8丁目入り



8月30日の支援メンバー

ました。ここは行方不明者がいないことから災害発生時のままの状態でした。午前中は泥出し、午後からはバケツリレー方式で、土嚢の運び出しをしました。案の定、翌朝は全身筋肉痛でしたが、被災者の心痛に比べればいたしたことはありません。現地の1日も早い回復を願います。

沖縄県知事選挙支援

同人社団本部 経理課

植田 恒平

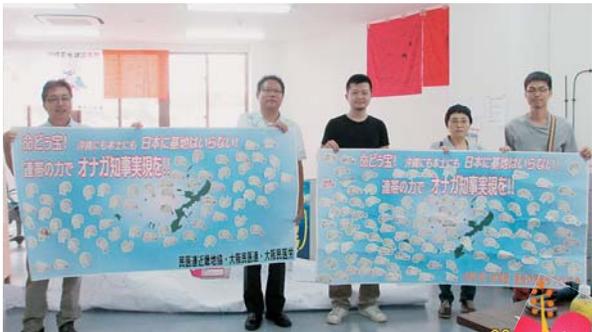
9月26日(金)から3日間の日程で、同人社団から参加したのは私も含めて4人でした。メインはピラマキで3日間朝夕6ラウンド計26区画、約5千枚を4人でまき切りました。

ピラマキの最中、通りのすがりのオバアに声をかけると「翁長さんと誕生日が一緒よ。事務所開きにも参加したさ。若い人頑張つてねえ!」と励まし言葉をもらいました。

ピラマキの合間に辺野古の座り込みにも参加。辺野古の状況を自分の目で確認したかったという若者(沖縄出身で、本土の大学に行っている)が、地元の方の話をしきりにメモしている姿を見て、若い人が関心を持っていることに嬉しく思いました。

12月でもクーラーが欠かせない沖縄ではこれから文字通り熱い選挙戦が繰り広げられるはず。新基地を沖縄に造らせないために、現地支援から帰ってきた大阪から応援したいと思います。

メッセージ届けました



ストラップ・メッセージカードで 意思表示しよう!

現地に行かなくても「今すぐできる支援」として各職場で救援募金を集め、全日本民医連を通じて広島へお届けしています。また沖縄へ向けては、「辺野古に基地を作らせない!」の思いをメッセージカードに託し、ジユゴンやヤンバルクイナのストラップを携帯し、大阪から熱い気持ちを発信しています。

辺野古ゲート前で



8年にわたる辺野古座り込み